

# 研推だよりNo.31



令和5年  
1月25日  
研究推進部会

## 全体会ありがとうございました。さあ、来年の研究の方向性を決めましょう！

先日の研究全体会では、来年度の研究について各グループから様々な意見をいただきありがとうございました。主に「分科会のもち方」「実践本数」の2つをテーマに絞って話し合っていたわけですが、司会の進行・意見集約の力不足で、会の中で合意形成をすることができずすみませんでした。

しかし司会をしながら、この全体会がまったく得るものがなかったかということ、そうでもない気がしています。例えば「分科会のもち方」については、先生方の中で（もちろん私も含めてですが）新しい事へチャレンジしたい気持ちが大きくなっていったように思います。これまでの2年間の実践を通して、「これまでの既存の分科会形式から、何か新しい分科会へとシフトチェンジしてもいい頃合いなのでは…？」と感じてらっしゃる方が少なくなかったのは、研究を進める上で1歩前進と言ってよいと思うのです。じゃあ具体的にどうするの、というところまでは行きつきませんでした。先生方と話し合った内容をベースに研推でも具体的なイメージとして提案できるようにしていきます。これからもよろしくお願ひします。

### 1 来年度の研究の方向性（案）研推内で検討します

#### ① アプリケーションごとに分科会設定

例) SkyMenu 分科会 Teams 分科会 コラボノート分科会

→どこでどう使うといいの？

→自分の興味あるICTの何かの「プロ」をつかって学年で共有して手立てを意識しながら研究発表の授業へ！

例2) 手立てのマトリクスごと

ICTでのびたと短絡的につなげるのは危険？

→効果的な活用とは？

ねらいを達成するためのツールがICT

○わかりやすい

○授業以外の校務スリム化的な内容もくみこみやすい

▲手法ありきの批判

→やっていく中で網羅できる

#### ③ 学習過程ごとの分科会設定

例) 授業の「導入・展開・まとめ」ごとの分科会

○手立てが立てやすい

▲研究内容が広げにくい

#### ② 手立てのマトリクスごとに分科会設定

|            | 思考を深める手立て  | 表現を豊かにする手立て   |
|------------|--|---|
| 場面を<br>意識す | ①漢字パズル<br>(3年国語、松田実践)<br>②撮影動画をもとにアドバイス※<br>(4年体育、林実践)         | ①おすすめの本紹介※<br>(3年国語、岡本実践)<br>②おもちゃの作り方紹介※<br>(2年生活、中島実践)<br>③写真撮影<br>(2年生活、水流実践)  |
| 方法を<br>示す  | ①ポートフォリオでの情報蓄積※<br>(すずかけ総合、山中実践)<br>②思考ツール<br>(5年社会、中島実践)..... | ①共同閲覧共同編集(6年国語、竹内実践)※<br>②動画撮影(すずかけ総合、福岡実践)<br>③プレゼン作成(6年外国語、澤登実践)<br>④写真撮影(1年国語、豊田実践)※<br>⑤ニュース動画作成(5年総合、本田実践)※<br>⑥Wordによる文書作成(4年国語、松浦実践) |

表現するために思考を働かせる（思考する場面に布石を打つ）  
→見通しをもつと思考も深まる

○今年度からの継続性

○まるわかりブック化して「研究のウリ」にできる

▲難解な研究になりそう

#### ICT活用に主眼を置いた研究主題へ

例)「令和の日本型教育を見据えた、ICTを活用した学びスタイルの創造」→分科会は？

○分かりやすい 「個別最適な学び」

○授業以外も組み込みやすい 何がのびたのか？

▲主題ごと変えることのリスク